

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	○食事を楽しむことの出来る支援 今まで、毎日買物に行き食材選びをしていた。また自分の好きなものを買って食べたり、外食や喫茶を楽しんだりしていたが、一切の外出が出来なくなった。何より、職員と利用者が常に一緒に食卓を囲んでいた日常がすべてなくなっている。いつまで続くかわからない状況の中で、利用者の食べる楽しみに、改めて目を向けていきたい。	①職員と一緒に食べることでできない食卓で、利用者が安全に食事を楽しむことのできる環境を考え整えられる。 ②利用者が喜んで食べたいと思える美味しいような食事が提供できる ③好きなものを選んで、それを食べるという楽しみが定期的に持てるようにする	①検食簿を活かす。良い点・工夫点を丁寧に記入するとともに、写真に残しながら、定期的に内容の精査をしていく。 ②日頃から希望を聞きながら、祝事や季節行事の前にはミーティングで献立を話し合う。 ③ホーム内で売店を毎月担当者が利用者の好むものを選んで実施していく。 ④一緒に食べないことで食事の様子を見落とさないよう安全に十分気をつける。	12ヶ月
2	19・51	○本人を共に支え合う家族との関係作り ○電話や手紙の支援 感染対策のために面会制限をしてきた一年であり、家族の会いたい思いや心配に十分対応できているのか不安な状況である。また、利用者が家族や家のことを忘れてしまうのではないかと懸念もある。家族と本人との繋がりを断ち切らない支援を考え続けなければならない。	①家族に本人の様子が伝わる(安心できる)方法を常に考えながら、感染の状況に合わせた対応ができる ②家族の願いや希望を踏まえた介護計画が立案できる(家族が、自分たちの思いが含まれているということを実感できる) ③利用者一人一人に合った、自分が元気であることを家族に伝えられる手段を見つけ、継続的に発信する支援が出来る	①昨年1年間の面会・手紙・電話・ビデオ通話の実績を振り返り、過不足を検討する。 ②毎月の家族への手紙を全職員が目を通し、良い所(内容や表現)を見える化して、定期的にミーティングで取り上げる ③家族へ伝えたこと、家族からの要望など聞き取ったことは記録に残し情報共有していく。 ④職員と家族がお互いの顔を知らない状況も出てきたので、ホームの便りなど工夫していく(面会がないため)	12ヶ月
3	52	○居心地の良い共用空間づくり 環境を整えることは、利用者の暮らしの安定に繋がる大きな目標であり、その視点(範囲)も多くあるが、今回は、今、最も気になっている「音」(職員の足音が大きい、職員の声が大きい、テレビがいつもついたまま等)に焦点を当てて解消改善していきたい	①認知症の人にとっての「音」の刺激、影響を理解できる ②利用者一人一人にとって、心地よい音や声、不安や混乱を招く不快な音や声は何かを考え、具体的な対策ができる ③人的環境となる職員の声や足音、発する物音が、不快な刺激となってしまうよう、コミュニケーション方法も含め改善できる	①テレビや音楽など音量だけでなく、選曲にも気をつけ、流れっぱなしにしない。(単なる雑音にならないようにする) ②声や足音、また掃除や片付けの物音など、自分では気づきにくいいため、お互いが遠慮なく伝え合えるようにする。 ③利用者一人ひとりにとって、音の刺激が何か、それによる影響がないかをカンファレンス等を通じて考えていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。